



覚悟

R5.2.24_Friday

【心を育む生徒指導通信 No9：通算 52 号】

作成者・教諭 花園修兵

日々刻々と様変わりする国際情勢、新型コロナウイルスの世界的蔓延など、いま私たちは出口の見えない危機、「死中」にあります。出口の見えないトンネルの中でどう光を見出し、人生の力強い一歩を踏み出していか。2023 年は終わりと始まりの年になると小耳にはさみました。暗いニュースから明るいニュースが飛び交う年になることを願うばかりです。今回のテーマは「覚悟」です。

重い病の絶望から立ち直った経験を持つ田坂広志氏（多摩大学大学院名誉教授）に、私たちに求められている「覚悟」について語っていただいた内容から一緒に考えていきましょう。

今から 38 年前、32 歳のとき、田坂さんは重い病を患い、医者から「もう長くは生きられない」との宣告を受けました。皆さんなら、このような宣告を受けた時、どのようにその現実を受け止めますか。普段の生活の中では考えもしないことなので実感がないかもしれませんが、今日もまた、そのような宣告を受け人、そして、生きたくても生きれなかった人がいることを知ってください。

田坂さんは医者から見放され、自分の命が刻々と失われていく恐怖と絶望の日々を過ごします。田坂さんの両親は田坂さんに、ある禅寺に行くことを勧めました。

藁をもちかむ思いで、その寺に行ったといいます。そこには何か不思議な治療法があるのでは…との期待は、すぐに打ち砕かれます。寺を訪れると農具を渡され、ただひたすら畑仕事で献勞することが求められたからです。明日の命も知れぬ自分が、なぜこんな農作業をやらなければならないのか。そう思いながら鋤を振り下ろしていると、不意に横から「どんどん良くなる！ どんどん良くなる！」と叫ぶ声が聞こえてきました。見ると 1 人の男性が懸命に鋤を振り下ろしています。

しかし、その足は大きく腫れあがり、ひと目で腎臓を患っていることが分かりました。休憩時間に声を掛けると、その男性は言いました。

「もう 10 年、病院を出たり入ったりですわ。一向に良くならんです。このままじゃ家族がダメになる。自分で治すしかないんです！」

その覚悟の言葉が胸に突き刺さってきました。そして、その瞬間、一つの思いが湧き上がってきました。

「そうだ、自分で治すしかないんだ！」

それまで自分は、医者が治してくれないか、この寺が何とかしてくれないかと、常に他者頼みであり、自分の中に眠る無限の生命力を信じていませんでした。

皆さんにもこのような似た経験があるのではないのでしょうか。うまくいかないことを人のせいや、環境のせいにしてしまうことが…私にもあります。人間誰もが自分の都合の良いように言い訳を考えてしまうんですね。この気付きはとても大きいと思いますし、そのように自分を捉えることで考え方や行動が変わってくると思います。田坂さんはここで最初の気づきを得たわけですね。

それから数日後、山の中腹の畑を耕しに行くことになります。当番になった田坂さんは、仲間に農具を配り終え、先に出発した仲間を追って山道を登り始めると、思わず言葉を失う光景を目にします。

それは、足を患っている献勞仲間の老女が、鋤を杖にして、山道を必死に登っていく姿でした。農作業はおろか、歩くことすら困難なのに、不自由な足で、鋤にすがりながら、山道を登っている。

しかし、そのうしろ姿から、その老女の覚悟の声が聞こえてきました。

「たとえ畑に辿り着けなくともよい！ 私は全身全霊、この命を振り絞って登り続けます！」

私は思わず心の中で手を合わせ、「有り難うございます。大切なことを教えて頂きました」と念じながら、横を通り過ぎていきました。

その献勞の日々を続け、寺の禅師との接見がかなったのは、ようやく 9 日目の夜でした。

長い廊下を渡って部屋に入り、一対一で向き合った禅師は、力の満ちた声で、田坂さんに聞きました。

「どうなされた」

「はい、実は・・・」

私は堰を切ったように苦しい胸の内を吐き出しました。

重い病気を患っていること。

医者からもう命は長くないと言われたこと。

一縷の望みを抱いてこの寺へやってきたこと・・・

禅師はきっと、何か励ます言葉をかけてくれるに違いない。

そう期待しながら語りました。

その話を聞き終えて、しばしの沈黙の後、禅師は言いました。

「そうか、もう命は長くないか」

「はい・・・」

その後、禅師は、腹に響く声で力強く、こう言ったのです。

「だがな、一つだけ言っておく。人間、死ぬまで命はあるんだよ！！」

一瞬、何を言われたのか理解できませんでした。当たり前のことを言われた気がします。

しかし、禅師は続けてもう一つ、力強く言葉を語ると、接見を終えました。

田坂さんは部屋を出て長い廊下を戻りながら、禅師の言葉を思い起こしました。

その瞬間、突如、気づいたのです。 そうだ、禅師の言う通りだ！

人間、死ぬまで命があるにもかかわらず、私はもう死んでいた・・・

どうしてこんな病気になってしまったのかと「過去を悔いる」ことに延々と時間を使い、これからどうなるんだろうと「未来を憂うる」ことに延々と時間を使い、かけがえのない、今を生きてはいなかった。

その瞬間、禅師が続けて語った言葉が心に甦ってきます。

「過去は無い。未来も無い。有るのは、永遠に続く、今だけだ。今を生きよ！ 今を生ききれ！！」

この言葉が胸に刺さってきました。

そして、このとき、田坂さんは、一つの覚悟を心に定めたと言います。

「ああ、この病で、明日死のうが、明後日死のうが、もう構わない。それが天の定めなら仕方ない。しかし、過去を悔いること、未来を憂うることで、**今日というかけがえのない一日を失うことは絶対にしない！ 今日**

という！日を精一杯生きろう！」

そして、そう覚悟を定めた瞬間、田坂さんは病を克服していったそうです。

皆さん、どうでしたか。これまでの自分を振り返り、自分に起こったことを他人のせいや環境のせいにしていませんでしたか。うまくいかないことや嫌なことから逃げていませんでしたか。自分の過去は過ぎ去ってしまったもので、今のあなたが一番新しいあなたなんです。だから、過去にあったことを変えていくことができるのは、今の新しいあなたにしかできないことなんです。この機を捉えて、日々新しいあなたの人生を、あなたの手で豊かなものにしてください。そして、自分の肚にひとつ覚悟を決めて、この新時代を切り拓いていく一翼を担う穴高生であることを願っています。

